

目 標

我々、いわき経済同友会会員は、
異業種交流活動を通して、
持続可能な地域経済圏をつくり、
夢と希望に満ちあふれた、
元気な地域社会を目指します。

SEA IWAKI

いわき経済同友会

三つの目的

- 一つ 元気な会社をつくろう
- 二つ 元気な人財をつくろう
- 三つ 元気な経済圏をつくろう

8月号/2019年8月1日発行

7月22日(月)
18:30~

7月通常例会

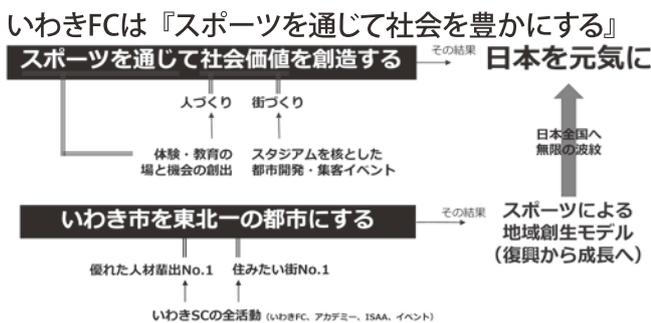
会 場
ワシントンホテル椿山荘

演題 「スポーツを通して行える教育と、魅力あるまちを目指して」
演者 いわきスポーツクラブ 岩清水銀士朗 氏



第1部 「スポーツを通して行える教育と、魅力あるまちを目指して」

演者 いわきスポーツクラブ 岩清水銀士朗 氏



未来に担う人材を育成する



**IWAKI SPORTS
ATHLETIC ACADEMY**

小学生以下のスポーツ教室



**IWAKI FC
ACADEMY**

中学、高校年代の選抜チーム

IWAKI SPORTS ATHLETIC ACADEMY THE ACTIVE KIDS~様々な可能性にチャレンジ~

- イベントには約400名の子どもが参加
- ・PARK開催(毎週水曜日定例)
2017年に登録人数191人だったのが、2018年には353人に。
- ・アウトリーチ活動
(選手がスタッフとなり、各園を訪問)
2018年には31園訪問・参加した人数は1,124人。

福島県の小学生の現状

- ・肥満傾向児
- ・体カテスト全国平均値以下
- ・運動時間不足
- ・空間(震災以降いまだに、外遊びが危惧されている)

リーグ →○選手発掘
○事業化しクラブ運営資金調達

IWAKI SPORTS ATHLETIC ACADEMY

- スポーツ万能型育成
○無料で運営・未来への投資

IWAKI FC ACADEMY

- ・ THE SMART ATHLETE
世界で通用する身体と技術、優れたコミュニケーション能力
- ・ THE ATHLETIC WOMAN
優れたパフォーマンス、美しさと強い意志

イノベティブないわきFCアカデミー人材育成システム

いわきFCが着手している文武不岐の仕組み作り、語学（英語）習得を含めた人としての幅や奥行きを広げていくための働き掛け、アカデミー全員のスポーツ万能化を目指した野心的な取り組み、さらには視野に入れている競技転向等の前例のないシステム

第2部 パネルディスカッション

<パネラー(敬称略)>

(株)いわきスポーツクラブ(岩清水本部長)、磐城高校ラグビー部(坂本 幸司 監督)、いわき松風クラブ(磯崎 邦広 総監督)、いわき市サッカー協会(阿部 智 専務)、モデレーター(田子 英彦 副代表)

田子 英彦 副代表幹事

若者が減少している。
学校を卒業した優秀な若者がこのいわきに就職先が少ないという現状。
スポーツの面から言いますと、いわき市にはスポーツのできる優秀な子ども達がいるのですが、進学を考えますと、県外の学校に行ってしまうといえます。

今日は、スポーツと教育とまちづくりをテーマに進めさせていただきます。

今日ここにお招きしました方は、いわきの中で重鎮中の重鎮の皆さんです。奥の深いテーマですので、今日を皮切りにいたしまして、“気付き”を1つでも2つでも持ち帰って、このスポーツを切り口として“まちづくり”“人材育成”“スポーツの活性化”を皆さんと共に話し合っていきたいと思えます。

いわき市の町を持続可能的に発展させるために何ができるか?について話し合ってくださいと思います。

坂本 幸司氏

先程まで7人制ラグビーの全国大会に出場いたしました、長野の菅平から戻って参りました。遅れましたすいません。本校は全く勝てず全国の壁の厚さを感じて参りました。

普段は磐城高校の体育の教員で部活の指導が本業であります。また、ラグビー協会にも所属しております。協会の中での普及活動や強化活動にも参加しております。

ラグビーはプロというよりも仕事との両立。世界の中のトッププロは別ですけどアマチュアの中に存在しております。人生の楽しみの1つです。



構築。様々な夢が叶うような重層的な環境の整備を着々と進めている。

いわきFCが目指しているのは、999人の落伍者を生み出すようなアカデミーなどではなく、1000人全員が大きく成長し、それぞれがそれぞれの目標を達成できるアカデミーである。

サッカークラブが原動力や牽引車となり、地域経済を回していく挑戦にはさらに続きがある。スポーツによる地方創生の普遍的な成功モデルを作り、他の地方都市を巻き込んでいく。様々な側面で制度疲労が顕著になっている日本という国自体を、地方から立て直していこうという世直しの試みでもある。

会社のイメージ戦略の中に組み込まれた中で活動しているのがラグビーの特徴です。トップを目指し、色々な経験を積みながら次の生活に活かすのが、ラグビーの使命であると思っています。ですので、普及活動の中でも、楽しく楽しく、そして競争の中で、チームの中で、段階を追って指導しています。

また、現在4,000～5,000人のいわき市の小学生の子ども達とタグラグビーをやっています。そして、その子ども達がラグビーを選んだ時に、強いチーム、強い選手と強化できるような事を今やっているのがラグビー協会でもその一員です。ありがとうございます。

磯崎 邦広氏

私は今年3月に教員を退職いたしました、4月から小名浜二中に再任いたしました。3度の飯より野球が好きです。

まず、野球の現状を考えた時に、昔は生まれた時から「男は野球」というように野球人口が大変多かったです。10年前は軟式野球は全国で30万人いました。硬式野球は6万人。現在は軟式野球は17万人に、硬式野球は5万人。高校野球は10年前は17万人、現在は6万人です。

このデータを見ると、10年後軟式野球は0になる計算です。高校野球の硬式野球の5万人だけではアスリートどころか将来大変なことになるのではという危機感を持っています。野球人口の減少は10年前から言われてきたことです。

今日は皆さんと共に勉強したいと楽しみに参加いたしました。



阿部 智氏

現在、いわき市サッカー協会専務理事という立場で活動しています。

私は小名浜で生まれ育ちまして、小学校・中学校・高校と全て全国大会を経験し、指導者としても国体等を経験しております。

現在のいわき地区は幼児という小学生のカテゴリーでは戦えますが、中学・高校となりますと、県内でもあまり良くありません。

もう一度原点に戻り、「小学生から変えていきましょう」と。勿論子どもばかりではなく指導者も変えていかなければと思っています。

現状の課題としては、女子の登録者数が大変少なく（これはいわき市に限らない）、例えば女子ワール



ドカップで優勝したアメリカはとんでもなく女子の人数が多いのです。

そんな中でも高倉監督率いる日本女子サッカーチームはよく頑張ったと思います。アメリカでは各大学の女子が集まり、アメリカ代表として戦っている訳ですから。まずは裾野の拡大を進めなければなりません。

先程、野球の人口も減っていると有りますが、サッカーについても同じであります。実際、子どもの数が減り、その中でも女子の数はもっと少ないです。今後とも宜しくお願いします。

スポーツ競技別の人数

○色々なノウハウを持っているいわきFCさんとの連携の模索

☆子どもがスポーツをやるのに何か必要ですか？

→健康

☆スポーツをやる子どもの減少

☆今、公園で子どもが遊んでいない。禁止されている。

→各スポーツができる場所はあるか？

☆野球人口が何故減ってきたか？

→小さいころからキャッチボールをやらなくなった。

広場がない。送り迎えの問題。用具が高い。

組織がバラバラ。

磯崎氏

ラグビー、サッカー、テニス、卓球などはピラミッド型の組織が出来ています。ところが、野球は上から下まで束ねる組織がありません。横の繋がりがあっても、縦の繋がりが無い。野球人口は減っているのに、プロ野球・高校野球の動員率はなぜか上がっていて、完全な『見るスポーツ』になっています。

いわき市では、中学校から高校へと野球人口を増やそうと努力をしています。(世界的にも)指導も目を覚まして組織作りをしなければなりません。

女子野球の数を増やすことも忘れてはいけません。

阿部氏

いわき市サッカー協会は、今年の5月にいわきFCさんとの連携がやっとまとまりました。

人材の育成、指導者、キッズと呼ばれる小学生低学年の発掘、いわきFCの会場の有効活用。小学生の子ども達を週1回(火曜日)、アカデミーのトレーニングに混ぜてみる(小学生1回20人・18チームを

週割で行う)、月1回の指導者講習会は先月(6月)スタートいたしました。昨日2回目がありました。下からの底上げに務める為に始まりました。

大きい目的は“スポーツを通して人を育てる”その為の入り口を作る事です。地域一体となり、子ども達を育てることが目的です。

田子氏

いろいろなお話を頂きました。『いわき市を元気にするためには』一言お願いします。

坂本氏

子ども達を外に引っ張り出したい。子ども達が外で遊んでいる町は町も元気。

磯崎氏

町で大会開催、地域の方々と連携しての環境づくり。

阿部氏

キーワードは“楽しい”

スポーツをやって楽しい。生涯を通して楽しめるスポーツの為の環境づくり。(アメリカは学校を卒業してから、競技人口が増える)

石清水銀士朗氏

地域で子どもを育てる。

いわきFCサポーター団体協議会 野田 昇氏

他のスポーツも応援する心を持ってもらいたい。各スポーツを楽しむ。

田子氏

パネラーの皆様ありがとうございました。

◆ 誕生月プレゼント

アンスリウムが贈られました



左から松崎総一郎さん(7月21日生)、芳賀潔さん(7月21日生)、平澤智恵さん(7月4日生)、安島代表幹事、佐藤光代さん(7月18日生)、田子英彦さん(7月23日生)

7月懇親会写真



7月グループ会報告

第1グループ会

■日 時 7月29日(月曜日)
■場 所 常磐共同ガスKK会議室

講師 関彰商事(株)ビジネスエネルギーグループリーダー
下窪 嗣文 氏
関彰商事(株)ビジネスソリューション部いわき支店
藤原 孝二 氏

内容 関彰商事グループの事業案内と働き方改革法対策について

関彰商事は創業111年目、北関東と福島を拠点に、グループ会社20社、社員2,200名。

事業内容として、エネルギー・カーライフ・ホームライフ・ビジネスライフ・福祉の分野において事業を展開し、社会貢献も幅広く実施している働き方改革対応については、独自の「VANCE勤怠」を製作販売し、より働きやすい会社のサポートをしていると同時に、有給休暇取得の工夫、女性が働きやすい職場環境の整備「くるみん」「えるぼし」取得など多方面においての改革を積極的に実施している。

第2グループ会

■日 時 7月22日(月曜日)
■場 所 生涯学習プラザ

スポーツ、教育など官民連携のコラボレーションを具現化する為の第一歩にする上でいわきスポーツクラブの持つポテンシャルを活用し、子供達の人材教育をどのように進め、いわき市のまちづくりと有機的な結びつけ、持続可能ないわき市とともに、子供達が、残りたい町を目指す議論の場とした。

講師の岩清水氏により、サッカーに特化した教育プログラムではなく、競技種目を越えたスポーツ指導教育並びに、勉学の重要性も込めた講演内容で、参加して頂いた各競技種目の代表の皆さんからも、今後の指導や考え方について共感と賛同を得られた。

異業種競技であっても、団体同士が協調できれば、子供達に向けて出来る指導や教育がまだまだ出来る余地があり、魅力あるいわきに繋げていけるのではないかと感

じた。

1. いわきスポーツクラブとしての青少年に対し、スポーツを通しての取り組みと今後の子供達の可能性を伸ばす人材教育のプレゼン。

講師：いわきスポーツクラブ 岩清水氏

2. ディスカッション

スポーツ教育が及ぼす持続可能なまちづくりへの影響と今後の課題と戦略にて

トークセッションメンバー

いわきスポーツクラブ 岩清水氏

磐城高校 ラグビー 坂本監督

いわき市サッカー協会 阿部専務

いわき松風クラブ 磯崎総監督

モ) いわき経済同友会 田子副代表

※セッションの内容

①各スポーツ団体の現状と未来認識の確認

②世代間で違う指導方法の考え方と今後

③スポーツが及ぼす持続可能なまちづくりへの影響と今後の課題

少々時間的に講演、トークセッションが短かったと思われませんが、岩清水氏の講演でいわきスポーツクラブが行おうとしている事が、伝わったと思います。ディスカッションでは、メンバーが非常に熱い指導者で論議も熱くなりましたが、スポーツ、教育など具現化する為、今後は、行政とも連携も視野に入れながら、いわき経済同友会会員だから出来る事を考えて行きたいと思えます。

第3グループ会

■日 時 7月31日(水曜日)
■場 所 いわき平競輪場

今月は、「いわき平競輪の施設見学と利活用」を行いました。ナイター開催ということで、選手会の佐川達也会員から、いわき市産業振興部公営競技事務所木村丈二次長にお世話になり、今回も貴賓室での視察となりました。

車券の購入方法などは、慣れている会員からご指導いただきました。4R行いまして、一喜一憂しながら盛り上がりました。

なお、H副代表が最終レースで、万車券を獲得しました。

FMいわき「いわき経済同友会だより」

【9月予定放送】

- ・ 9月2日 第3グループ会
- ・ 9月9日 第3グループ会
- ・ 9月16日 第3グループ会

◇毎週月曜日17時45分からです。(約5分間)

- ・ 9月23日 第3グループ会
- ・ 9月30日 第3グループ会

※インターネットでも、FMいわきがお聴きできますので、17時45分になったら、下記のところをクリックして下さい。
<http://www.simulradio.jp/>

いわき経済同友会
ご入会のお勧め

いわき市内の企業経営者ならどなたでも入会できます

●会の趣旨に賛同される方は会員の推薦と所定の手続きによりどなたでも参加できます。
お問い合わせは下記へどうぞ。ご入会を心からお待ちしております。

事務局 〒970-8026 いわき市平字童子町4番地-18 いわき建設会館 4F
TEL 0246-23-1200 FAX 0246-23-1211
<http://www.seaiwaki.jp>
E-mail: doyukai@triton.ocn.ne.jp

発行 いわき経済同友会 安島 浩代表幹事
編集 情報委員会 委員長 坂本和久
副委員長／鈴木俊哉・松尾幸治・松崎貴弘
四ツ倉隆裕・山中壮士郎